

「事業名：人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践」

立命館大学(共同申請:東京大学、福島大学) 連携市町村:川俣町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村
現地拠点:双葉郡大熊町インキュベーション施設(予定)

事業のポイント

本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災および原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域でのフィールド教育、また地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村等の標葉地域を中心に実践する。

人材育成目標

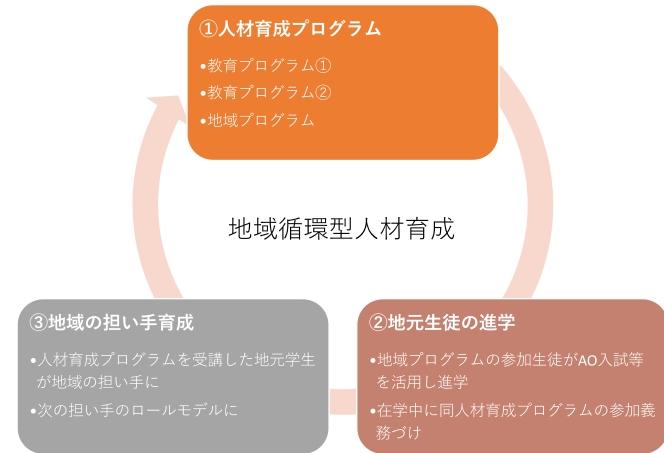
原子力災害によって引き起こされた地域課題を解決する課題解決型学習を中心にし、「解のない課題」に挑戦する人材を育成する。

2021年度の活動内容

- 教育プログラム①・・・3大学連携による課題解決型の人材育成のための教育プログラム(中長期:正課教育)。講義系科目と演習科目の組み合わせによるPBL学習の実施(設置予定)。
- 教育プログラム②・・・他大学の学生・院生も対象にした地域フィールドワーク学習(短期:正課外教育)
- 地域プログラム・・・地域の児童および住民を対象にした「地域未来人材」育成のための教育プログラム(短期:地域貢献)。3大学連携による教育プログラムをオンラインで公開し、リスクコミュニケーションや食と農による地域再生など幅広く履修できる教育プログラムを提供する。

取り組みによって得られる成果

地域課題解決の担い手育成:履修生 100名・地域児童・住民 50名
 ※将来構想・・・AO入試等を活用し、双葉郡の児童・生徒が3大学に進学。同人材育成プログラムを履修し、長期インターシップを受講することにより地域人材の育成



地域循環型人材育成プログラムの概要

